

# 不況のもとでの子ども・教育への影響調査

【抜 粋】

1998年9月 実施  
全 教 教 財 部

## 就学援助金受給および学校納付金の滞納状況の特徴

### 【京都・町立Y小学校】

給食費を“振込”にしているため、引き落とし不能が毎月数件ある。

### 【大阪・市立H小学校】

全校児童は減っているのに、'97年度95名→'98年度120名（就援25%強増）。生活保護7名→11名。就学援助費で学校徴収金の未納分を差し引き支給する家庭が増えた。

他校より転入あるいは他校への転出児のほとんどが、就学援助または生活保護家庭である。

### 【広島・広島市立M小学校】

10月1日現在、児童数230名（院内学級含む）うち、準要保護93名、生活保護27名、計120名、全体の60%近くを占めている。

## 授業料および学校納付金の滞納状況の特徴

### 【兵庫・県立A高校】

震災後、80名台に達した授業料減免の数が、予想に反して（予想では復興とともに減少すると考えた）一向に減少しない。

### 【島根・県立O高校】

今年度の授業料の減免が決定するまではかなりの滞納が見られた。

## 就学援助受給理由・滞納理由の特徴

### 【広島・市立M小学校】

現在認定されている主な理由は、準保69世帯のうち、36世帯が9号該当の経済的理由、23世帯が母子家庭（6号該当）である。

## 授業料および学校納付金滞納理由の特徴

### 【京都・市立F工業高校】

2学期に授業料減免を申請する者で、失業・解雇の理由が多く見られる。

### 【兵庫・県立B高校】

T社の倒産で家族が悲しみのなかで話し合い、生徒が母さんに悲しい顔で「ぼくは学校に行けるのか」と言ったと聞いている。

### 【兵庫・県立S高校】

借金のため両親が行く先知らずになったもの。

## 不況のもとで地域や家庭にどのような変化が現れているか

### 【岐阜・町立S小学校】

ユニー、ダイエー等の閉店により再就職先がない。  
兄弟、姉妹の就職先がない。

### 【京都・町立Y小学校】

地域を歩いてみると、織物業独特の“はた織りの音”はすっかり消えている。

### 【大阪・市立H小学校】

家賃の滞納で立ち退きや、幼稚園を辞めさせた話を聞いた。  
年度の途中での突然の転出の増加は、経済的な理由によるものと推測される。

### 【和歌山・K小学校】

地域的に観光産業に従事する保護者が多く、この不況のもと、観光客の減少でホテル・旅館の仕事（パート）が減っている。

### 【京都・町立T中学校】

親の失業・転業が増加。なかには転業先が見つからない人もある（電話等がとめられ、連絡のとれない親もある）。

一方で、今までの生活水準から下へさがれないところもあり、矛盾もある。

### 【大阪・市立I中学校】

年に5～6件、保護者変更通知が届いている。

### 【北海道・道立C高校】

リストラ・倒産等で失業する家庭が増え、経済的に困難な家庭が増している。

### 【静岡・県立A高校】

大きなホテルで倒産したところは建物が閉鎖され、ゴースタウン化している。

### 【京都・府立M高校定時制】

貸金ダウン2名。遅配1名。貸金上がるはずだった生徒で措置1名。仕事がないと訴えている生徒4名。

### 【兵庫・県立J高校】

零細企業でリストラが続いており、不安感が広がっている。

### 【島根・県立O高校】

141人中26人が減免者。

## 子ども・生徒の学校生活への影響

### 【京都・町立Y小学校】

朝、登校してきたばかりとか、1校時が終わったばかりに保健室で身体の不調を訴える子。そのまま寝てしまう（スヤスヤ）子など、朝食の実態が気になる。

### 【広島・市立K小学校】

この地域は市内でも比較的落ち着いている方だが、児童数の減少（35名減）にもかかわらず、援助金受給者は増加（10名増）している。

### 【北海道・道立C高校】

経済的困難により授業料免除を申請する生徒が増えてきている。

### 【静岡・県立A高校】

昨年度も同様の生徒がおり、平日・深夜にまでアルバイトがおよび、毎日遅刻して登校という事態が発生した。

### 【京都・府立M高校定時制】

バス通学者も多いため、その通学費が大変。一日往復2,000円以上の者もいる。

### 【兵庫・県立P高校】

アルバイトで家計を助ける必要に迫られ、部活動や学習に支障の出かぬない生徒もある。

部活のための用具を購入するのに、難色を示す生徒が増えてきた。

### 【兵庫・県立N高校】

家計が苦しくなって（授業料が負担で）、それが理由のすべてではないが、退学したもの1名。また、家業の人手がいるということで辞めたもの1名がいる。

### 【兵庫・県立G高校定時制】

転職を余儀なくされ、通学条件が失われ、休学に追い込まれるものが出てきた。

## 子ども・生徒の家庭生活・校外生活への影響

### 【兵庫・県立W商業高校】

無断アルバイトの増加。

アルバイト希望者が多いが、アルバイト先が見つからない。

### 【兵庫・県立M高校】

両親とも家庭に不在というのが多くなっている。

## 家庭の経済状態による進路変更などの特徴

### 【北海道・道立C高校】

進学を断念し、就職に変更する生徒が増えている。

### 【兵庫・県立P高校】

債権者に追われ、転校・退学を余儀なくされた。

大学進学を断念し、就職を選ぶ生徒がある。

### 【兵庫・県立W商業高校】

4年制大学希望者が3名ほど就職へ変更した。

### 【兵庫・県立M高校】

進学をあきらめたが、就職もないという状況の生徒が出てきている。

### 【兵庫・県立H高校】

震災で罹災のところに、今年父の会社が不況で倒産。ために進学希望から就職へ転換者1名。

## 就学援助支給基準の改善、事務補助の配置など学校・地域のとりくみ、 全教への要請など

### 【岐阜・町立S小学校】

母子家庭への補助金の増額。

### 【京都・町立N小学校】

就学援助が、貧しい人に与えられるものという意識が強いため、当然受けられる人でも受給しない。

金額を増やすことも大事だけど、みんなが受けられる制度ができれば良いなと思います。

### 【京都・町立Y小学校】

加悦町では、町教委より“就学援助制度おしらせ”のチラシを作成し、保護者に知らせて申請者を受け付けている。

民生委員会も積極的に開かれており、行政に不況対策委員会も設置されるなど、具体的な動きを期待し、町民としても学校側としても働きかけていきたい。

### 【大阪・市立H小学校】

学校のとりわけ担当者（事務職員）の負担は、物理的にも精神的にも限界に達しています。（プライバシー問題、保護者との連絡）

大きくは義務教育無償の原点にたち、学校徴収金の全廃→全額公費化をすすめる先頭に全教本部が立ち、世論形成へのイニシアチブをとられることを期待します。

### 【和歌山・K小学校】

就学援助支給を求める際、受理された場合でも、申請日からの支給にしてほしい。支給開始日が遅くなるため、給食費等が未納になる家庭がある。

### 【広島・市立K小学校】

児童扶養手当の支給に係わる所得制限の限度額が大幅に切り下げられ、母子家庭が非常に厳しい状況に追いやられている。支給基準の改善、支給額の引き上げなどのとりくみが必要である。

### 【広島・市立M小学校】

事務補助配置はぜひお願いしたい。

それに伴い、公費で設置されるべきものは公費化をしていくためには、予算の増額は必要不可欠である。

### 【京都・町立T中学校】

ぜひとも認定（支給）基準を緩和し、より多くの子どもに援助してほしい。

また給付水準も大幅に見直すべきだ！

### 【大阪・市立I中学校】

就学援助支給基準の改善について、平成8年度末の支給人数は74名、平成9年度末は81名、平成10年度98名と、毎年増加していると思われまます。

## 授業料減免の改善、通学費補助など学校・地域のとりくみ、全教への要請など

### 【兵庫・県立J高校】

近年、授業料減免の枠が狭まっているので、所得基準の見直しも含めて拡大してもらいたい。

### 【兵庫・県立F高校定時制】

授業料減免基準をもっとゆるくしてほしい。母子家庭で一家を支えるためにきつい労働をしてがんばっているのに、少し基準をオーバーしたからといって授業料を減免されないのは不合理である。